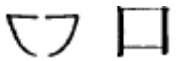
顔に関する部首



古は、十と口の会意字で、“十代にわたって口から口へと伝えられた”ことを表わした字です。“ふるい”“むかし”という意味に使われます。古色。古人。

否は、“違う（不）と言う”“いなむ”ことを表わした不と口の会意形声字。音は不（フ）が変化して、ヒ。否認、可否。

咲は、口と关（ショウ）の会意形声字。“口を開いてわらう”のが本義。「花咲」は花が笑っているのが本義で、わが国では、これを「花咲く」と読んだために、“さく”の訓が生まれました。

看は、手（手の変形）と目の会意字で、“目の上に手をかざしてみる”ことです。「見」が目の働きとしての“みる”ことを表わすのに対して、「看」は、見ようという意志を以て“みる”ことを表わしています。従って、「見」は、「見える」という使い方はできますが、「看」は「看える」という使い方はできません。また、“面倒をみる”意味に使います。看護。

相は、“木の上にのぼって見る”という意味の字です。広く、遠くまで見ようとしてみることで、見よりも深い意味を持っています。“さぐる”こと。人の容貌をさぐることを「観相」と言います。政治をみることから、“君主を補佐する”意味にも用いられるようになりました。首相。

盲は、“目の力を亡（うしな）う”という意味の字で、めくらを表わした会意字です。音は亡（モウ）。

取は、“耳を取る”という意味の会意字です。中国では、敵をたおした場合、重い首の代りに耳を取って証拠としました。音は手（シュ）。

聞は、“門に口を寄せてと（問）う”のに対して、“耳を門に寄せてきく”こと。音は門（モン）、漢音はブン。

聳は、物音のする方向に“耳を従わせる”という意味の会意形声字で、音は従（ジュウ）。“耳をそばだてる”ことから転じて、“山のそばだつ”意味に用いられます。

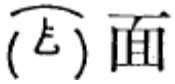
自は、鼻の象形で、“はな”が本義ですが、自分を指さす時に、鼻をさしますので、“わたくし”の用法が生まれました。「自分」というのは、“私の分け前”“私のもの”（英語の mine

にあたる）という意味の言葉です。

ついでに言いますと、「私」は、“ム（わたくし）の禾（いね）”という意味の字で、「自分」に当たる言葉です。「ム（ム）」は乙で鼻の象形で、自と同音同義の字です。「公」は、「私を分（八）割する」意味の字です。

臭（旧字は）は、“犬の鼻”で、“におい”または“かぐ”意味を表わしたものです。

鼻は“自が私の意味に転用されたために、（畢）を加えて作った形声字です。



面は、自の周囲に、顔の輪郭を加えて、“かお”の意味を表わした字です。「洗面」転じて、「表面」「地面」など“おもて”（顔を表わす古語ですが、今では表）の意味に使われます。

頁は、首（**ハ**）から上“あたま”を表わす部首です。旁（つくり）としてよく用いられます。昔から「大貝」の名で呼ばれますが、「顔旁（かおづくり）」と呼びたいものです。

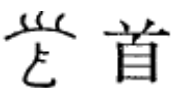
顔は、顔が本字です。文（あや）と彡（かざり）と厂（がん）との会意形声字である彦（美しい が本義の字。男子の美称としてよく用いられます）と頁との合字。音は彦（ゲン）です。

頭は、豆粒のようにまるいという意味の豆と頁との会意形声字です。音は豆（トウ）です。

頂は、丁と頁、との会意形声字で、“頭のいただき”が本義です。目上の人から物を受け取る時は、頭の頂（いただき）の高さにまで手を上げますので「頂戴する」（いただく）と言うのです。「山頂」（山の頂）は転用です。

順は、低きについて決して高きには向かわない川と頁（あたま）との会意字です。“頭を下げてすなおに従う”ことです。音は川（セン）が変化した巛（ジュン）（巡馴）です。

項は、後（コウ）の意味の工と頁（あたま）との会意形声字で、“後頭部”が本義の字です。急所ですから“大切な所”の意味に使われます。「項目」は、書物の大切な所の意味で、全体を小わけする場合、最初の大まかな方を「項」、それをさらに小わけしたものを「目」と言います。



首は、頁の上に髪の毛を加えた字です。“あたま”が本義です。元首、頭首。戦場で、敵の首（あたま）を取る場合、切り落とす所が頸（くび）ですので、首が頸の意味になりました。

県は、首を逆さにした形です。“さらし首”の象形です。木にかけられるので、“かける”という意味を表わしたものです。県の旧字体は「縣」です。系は、首をかけてつるための糸を表わしています。秦の始皇帝の時、縣を行政上の区画の名称にしましたので、“かける”という意味の字は、“心にかける”という意味の「懸」で表わしています。「懸念」は、ケと短かく発音されます。“心にかける”“気がかり”という意味です。

懸命は、“命（いのち）がけ”という意味の言葉です。一つのことに命がけになるのが「一所懸命」です。今では、なまって、「一生懸命」という言葉になっていますが、これでは意味が通じません。

臣は、目を大きく見開いて、“見張る”意味を表わした字です。臣下たる者の任務を表わしたものです。

監は、 で、人が皿に水を盛り、これを水鏡にして“みる”のが本義の字です。詳しくは第２章の監を御覧ください。

臨は、**人**が**品**物に近づいて、“よく品定めをする”のが本義の字です。**人**と**臣**と**品**との会意形声字です。音は品（ヒン）が変化してリン。今は、“その場に出向く”意味に使います。臨席。

甘は、口の中に“うまい”物を含んでいることを表わした指事字です。“あまい”こと。音は、“口に物を含む”の含（カン）です。

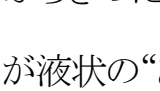
柑は、“甘い実のなる木”という意味の会意形声字です。“みかん”のことですが、昔は、単に“かん”、または“柑子（こうじ）”と言いました。

疳は、甘い物を食べすぎて起こると考えられていた小児病“かん”のことです。癇と同じ病気のことにも使われます。

旨は、**匕**と**甘**の会意形声字で、**人**が甘い物を口にして“うまい”ということを表わした字です。音は匕（ヒ）がなまってシになりました。

指は、**扌**と**旨**との会意形声字で、“うまい物をちょいとつまむ”**ゆび**を表わしました。音は旨（シ）です。

脂は、“旨い肉”という意味の字で、**旨**と**肉**の会意形声字です。“あぶらぎった肉”の意味から転じて“あぶら”の意味になりました。「油」が液状の“あぶら”であるのに対して、固型状のあぶらを言います。油脂、脂肪。



齦は、歯の根という意味の字で、“はぐき”のことです。音は根（コン）です。また銀（ギン）とも発音されます。歯齦炎。

齟は、重なる意味の且と歯との会意形声字で、歯が重なるという意味の字です。“八重歯”のこと。転じて、“物事のうまくかみあわぬこと”“食い違うこと”の意味に使われます。齟齬（計画に齟齬をきたす）。

舌は、口から“した”を出した形を表わした字です。音はゼツですが、テンとも発音されます。

甜は、舌と甘との会意字で、“舌に甘く感ずる”という意味の字です。音は舌（テン）。甜菜（てんさい）、甜瓜（てんか）（スイートメロン）。

舐は、舌と氏との形声字で、音は氏（シ）。“舌でなめる”ことです。

言は、口と辛（シン）の形声字で、“ものいう”意味の字です。“言葉”の部首です。

計は、数の意味の十と言との会意字。“数をかぞえる”こと。計数、計算。転じて、計画、計略。

訓は、順の意味の川と言との会意字。“順（したが）うべき言葉”という意味の字です。教訓、家訓、訓話。

詠は、“言葉を永くのばしてうたう”ことで、言と永の会意形声字。詠歌、朗詠。

詐は、作の意味の乍と言との会意形声字で、“作り言（ごと）”という意味の字。実際にない事を作りあげて人をあざむくこと。詐欺、詐取。音は作（サ）。

評は、“公平に言う”という意味の、平と言との会意形声字。他人の良し悪しを、私情をさしはさまずに言うのが「批評」です。音は平（ヒョウ）という呉音です。漢音は平（ヘイ）。

誠は、“成功する言葉”という意味の成と言との会意形声字。虚偽の言葉は一時的には成功するかに見えても、決していつまでも続くものではない。“真心から出る言葉”こそ、成功に導く言葉である、という意味からできた字です。

誉は、與（与の旧字体）と言との会意形声字で、“言葉を与える”という意味の字。人の善美なる行為に対して贈る“ほめ言葉”のことです。毀誉褒貶（きよほうへん）、名誉。音は与（ヨ）。

訟は、役所の意味の公（おおやけ）と言との会意形声字で、“官公庁にうったえる”ことです。音は公（コウ）が変化して公（ショウ）（松、頌）。訴訟。

警は、慎しむ意味の敬と言との会意形声字で、“慎しみなさいと注意の言葉を与える”ことです。警告、警戒。音は敬（ケイ）。

記は、糸の象形の己（S）と言との会意形声字。言葉を糸のように

長く続けて書きとめることです。記述、記録。

語は、“吾(われ)が人に言う”という意味の字で、“かたる”こと。また“かたる言葉”。言語、語調。

調は、用意周到の周(よく行き届くこと)と言の会意形声字で、“よく行き届いた言葉”が本義です。“ととのう”こと。今は、ととのえるために“調(しら)べる”という意味に使うことが多いようです。調査。また、“音楽の調(しら)べ”とも使います。調子。

誕は、“事実を引きのばし、誇張した言葉”という意味の字で、延と言との会意字。虚誕、欺誕。実際にないことを作り出すことから「生む」意味になりました。誕生。

詞は、役人の意味の司と言との会意字で“役人の言葉”という意味の字です。“りっぱな言葉”という意味に使われます。祝詞。

誇は、夸(カ)と言との形声字で、“大言”という意味の字。事実より大げさに言うことです。誇張、誇大。

証は、その事が正しいという“あかし”を言いたてることです。音は正(ショウ)。証言、証人、証明、保証。

誌は、志(心の動き)を言葉にして書きとめることです。音は志(シ)。日誌、雑誌。

認は、心から“みとめて”よろしいと言うことです。音は刃(ジン)。認(ニン)可、承認。

誘は、秀(シュウ)言(秀(すぐ)れている言葉)で“人の気を引く”ことです。“さそう”こと。音は秀(シュウ)が変化してユウ。勧誘、誘惑。

詳は、善美の意味の羊と言との会意形声字で、“くわしく”てよくわかる言葉”という意味の字です。音は羊(ヨウ)が変化してショウ。詳細、詳述。

談は、淡の意味の炎と言との会意形声字で、“淡々と語る”という意味の字です。音は淡(タン)。清談、閑談、談話。“激せず、固くない話”のことです。